

平成 16 年宮城県の経済動向

概況

平成16年の宮城県経済を振り返ると、電気機械工業や電子部品・デバイス工業、精密機械工業などのデジタル関連の業種を中心に生産が増加したが、秋口以降は生産の増勢鈍化がみられた。しかし、全体としては緩やかながら持ち直しの動きが続いた。このような中で、雇用は緩やかではあるが改善の動きがみられ、企業倒産は件数、負債総額ともに減少となり、特に負債総額は大幅に減少した。しかし、不況型倒産件数が占める割合は高水準で推移しており、依然厳しい状況をうかがわせた。

その一方で、雇用者所得の回復は弱く、先行きの不透明感も手伝い、個人消費は低調に推移した。住宅投資は増加に転じたものの依然として低水準にあり、公共投資は年々減少を続け、建設業を中心とした地域の中小企業には厳しい状況が続いている。

このような状況の中、11月に仙台市を本拠地としたプロ野球球団「東北楽天ゴールデンイーグルス」が誕生した。官民一体の歓迎ムードの中、今後、新球団は県経済に活性化をもたらすひとつの要因として期待されている。

主要経済指標の推移（前年比、前年同期比）

		12年	13年	14年	15年	16年					17年
						1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	
生産	鉱工業生産指数	7.4	5.7	0.2	5.4	6.1	5.0	9.6	9.0	1.0	-
	大口電力使用量	5.1	1.9	0.3	0.4	4.2	4.1	3.6	5.9	3.0	-
建設投資	新設住宅着工戸数	4.7	5.2	0.3	10.1	3.8	4.6	5.6	7.5	4.5	-
	公共工事請負金額	21.2	9.1	9.5	13.0	11.2	-	3.1	6.8	1.2	33.9
消費	大型小売店販売額	4.8	2.8	3.3	4.3	3.0	0.9	3.4	3.1	4.5	-
	乗用車（軽含）新車登録台数	2.5	0.6	2.2	0.1	0.4	2.1	3.2	2.6	1.1	-
物価	仙台市消費者物価指数 （生鮮食品を除く総合指数）	0.4	0.7	0.7	0.1	0.5	0.0	0.7	0.5	0.7	-
雇用	有効求人倍率	0.12	0.07	0.01	0.14	0.07	0.09	0.05	0.09	0.06	-
	実質賃金指数	0.4	4.3	3.4	10.1	1.3	5.6	3.6	1.0	1.5	-
倒産	企業倒産件数	26.3	1.8	8.6	30.3	8.9	19.2	30.7	0.0	34.9	-

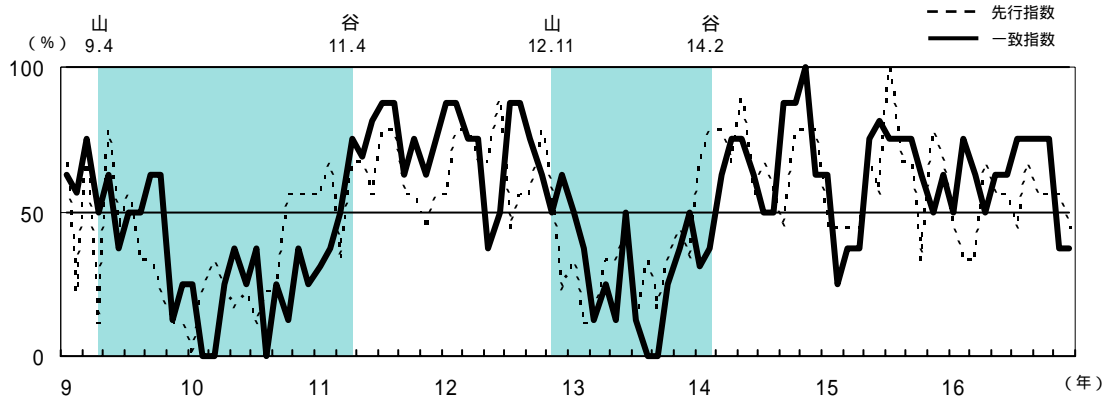
注1 鉱工業生産指数、仙台市消費者物価指数および実質賃金指数は、平成12年=100

注2 有効求人倍率については、前年(同期)差。単位はポイント

注3 実質賃金指数は事業所規模30人以上、製造業、現金給与総額

注4 公共工事請負金額は年度値

景気動向指数の推移



(資料:宮城県統計課)

生産

(1) 鉱工業生産指数

平成16年の鉱工業生産指数(原指数)は105.7(平成12年=100)で、前年比6.1%の上昇となり、3年連続の上昇となった。

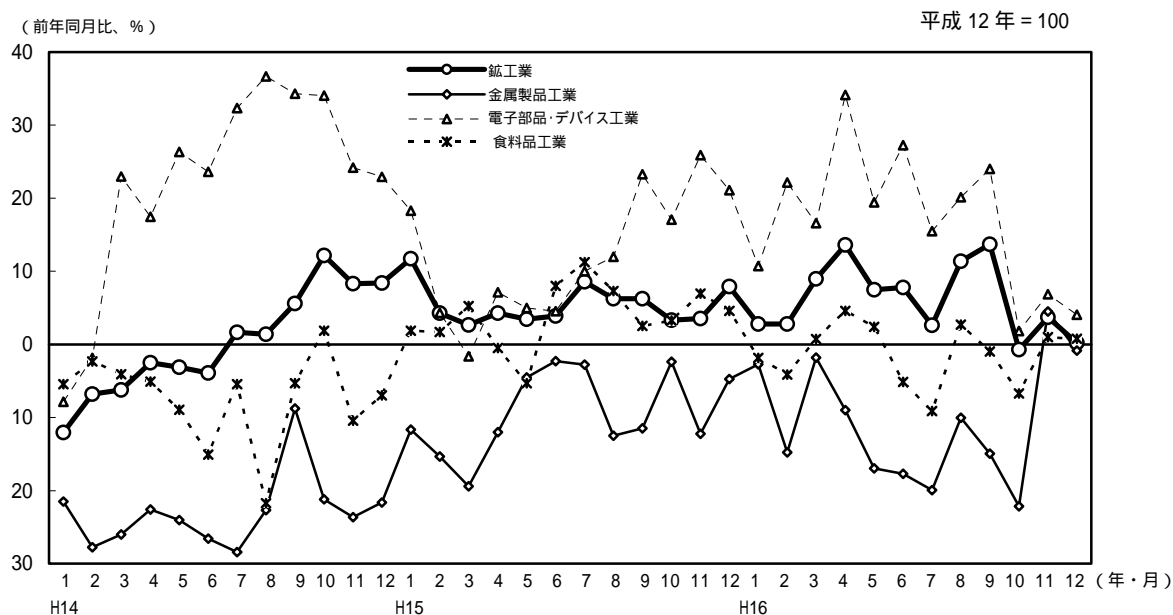
年間の推移をみると、第4四半期で前年同期比の上昇傾向が鈍化したものの、年間を通じて前年同期比を上回り、特に第2四半期、第3四半期の前年同期比はそれぞれ9.6%、9.0%と大きく上昇した。

ウェイトの大きい業種を中心にみると、電気機械工業および一般機械工業は、それぞれの第4四半期は前年同期比を下回ったものの、年間の前年比はそれぞれ1.7%、15.0%と上昇した。電子部品・デバイス工業およびパルプ・紙・紙加工品工業は、年間を通じて前年同期比を上回り、それぞれの前年比は16.4%、6.0%と上昇した。

一方で、最も大きいウェイトの食料品工業は、第2四半期が前年同期比を上回ったものの、年間では低下傾向にあり、前年比1.4%の低下となった。金属製品工業および窯業・土石製品工業、情報通信機械工業は年間を通じて前年同期比を下回り、それぞれの前年比は11.3%、10.2%、20.7%と大きく低下した。

また、ウェイトは小さいものの、精密機械工業は前年比167.9%と大きく上昇した。

月別宮城県鉱工業生産指数(原指数・前年同期比)の推移



(資料:宮城県統計課)

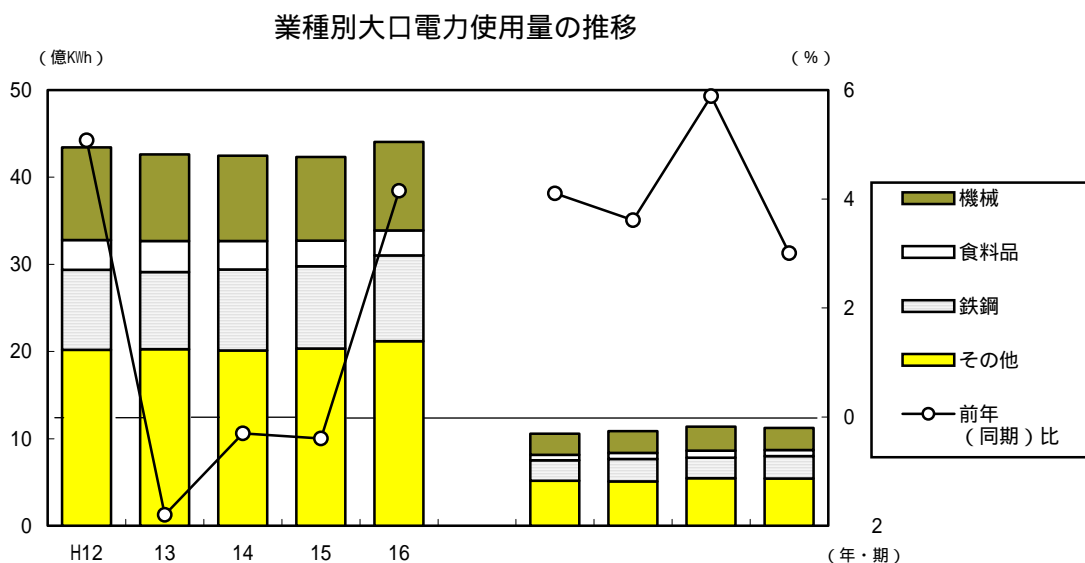
(2) 大口電力使用量

平成16年の大口電力(契約電力500KW以上)使用量は44億683万KWhで、前年比4.2%の増加となり、4年ぶりに増加に転じた。

年間の推移をみると、年初から年間を通じて前年同期比を上回った。

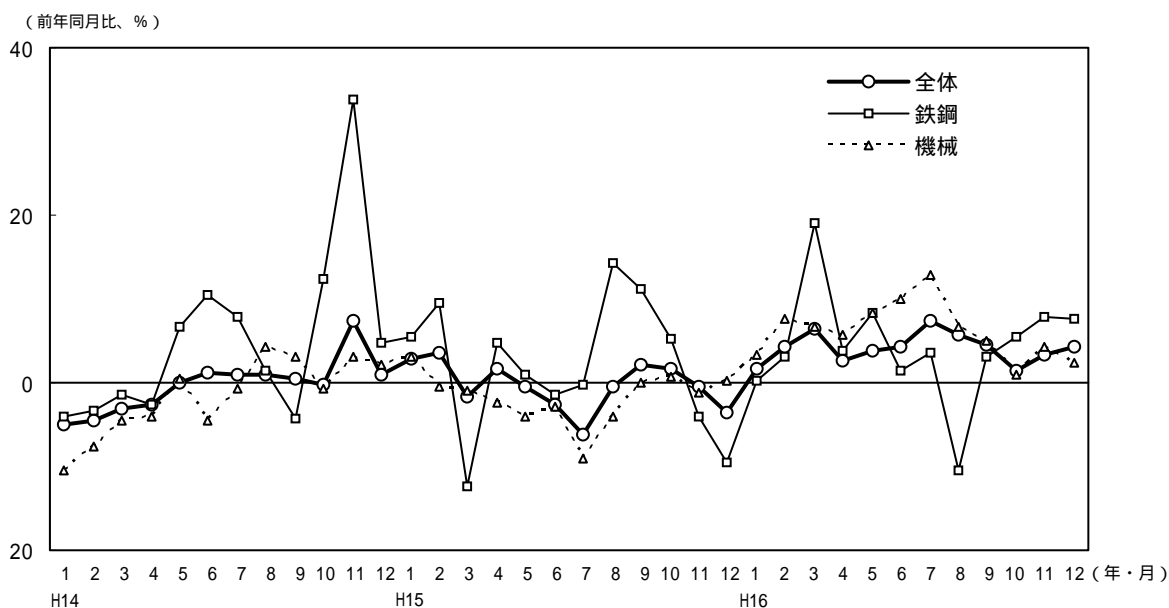
主要業種別にみると、機械は年間を通じて前年同期比を上回り、前年比6.2%の増加となった。食料品は年前半で前年同期比を大きく下回り、年後半ではやや上回ったものの、前年比は3.1%の減少となった。

鉄鋼は第3四半期で前年同期比を下回ったが、他の期間では大きく上回り、前年比は4.3%の増加となった。



(資料: (株)東北電力宮城支店「業務資料」)

月別業種別大口電力使用量(前年同期比)の推移



(資料: (株)東北電力宮城支店)

建設投資

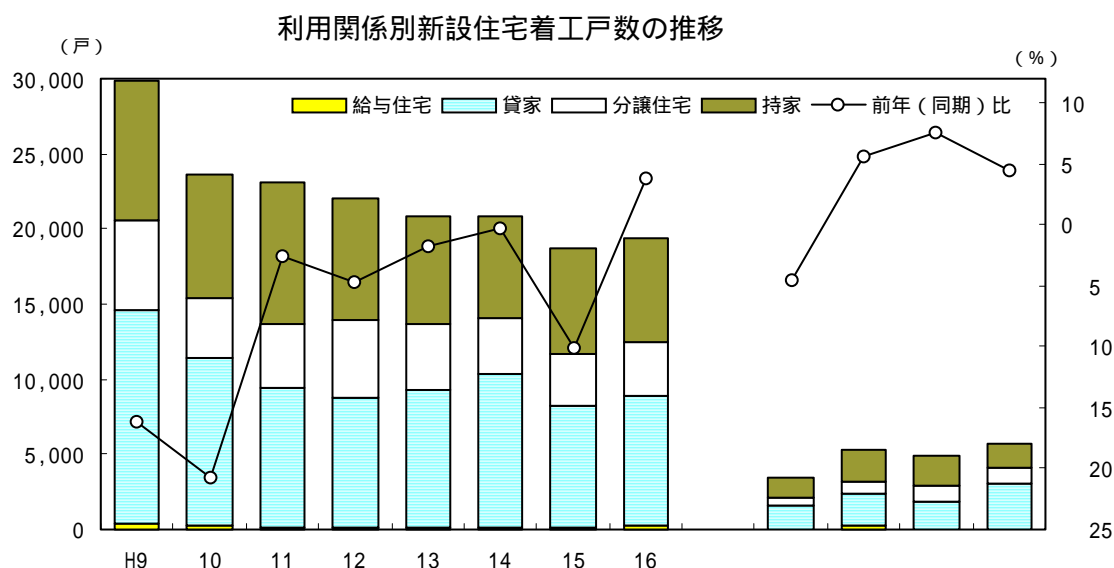
(1) 新設住宅着工戸数

平成16年の新設住宅着工戸数は1万9,382戸で前年比3.8%の増加となり、8年ぶりに増加に転じたものの依然として水準は低い状況にある。

年間の推移をみると、第1四半期は前年同期比を4.6%下回ったものの、第2四半期以降は平均で5.8%上回った。

利用関係別にみると、貸家(建築主が賃貸する目的で建築するもの)と分譲住宅(建売または分譲の目的で建築するもの)は第1四半期では前年同期比を下回ったものの、第2四半期以降は前年同期比を上回り、特に貸家は第4四半期で15.9%、分譲住宅は第3四半期で13.4%と大きく上回ったことでそれぞれの前年比は5.0%、3.7%と増加となった。

一方、持家(建築主が自分で居住する目的で建築するもの)は第1四半期で前年同期比を下回り、第2四半期および第3四半期で上回ったものの、第4四半期の前年同期比が14.5%と大きく下回ったことで前年比0.8%の減少となった。



(資料:国土交通省)

(2) 公共工事請負金額

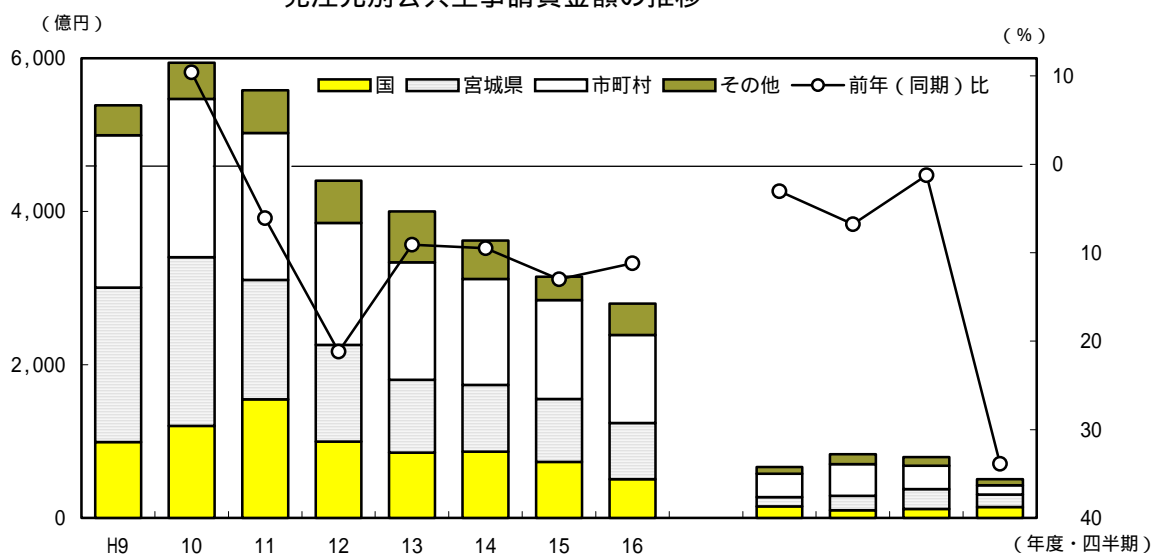
平成16年度の公共工事請負金額は2,798億7,400万円で、前年度比11.2%の減少となり、6年連続で減少となった。

年度間の推移をみると、年度当初から前年同期比を下回り、特に第4四半期(H17年1月～3月)は前年同期比を33.9%と大きく下回った。

発注者別にみると、国は第1四半期(4月～6月)で前年同期比をわずかに上回ったが、他の期間が前年同期比を大きく下回ったため、前年度比は30.7%の大幅な減少となった。宮城県は第3四半期(9月～12月)で前年同期比を上回ったものの、他の期間は前年同期比を下回ったため、前年度比は10.9%の減少となった。市町村は年度前半で前年同期比を上回ったものの、年度後半は前年同期比を下回った。特に第4四半期は60.1%と大きく下回り、前年度比は10.8%の減少となった。

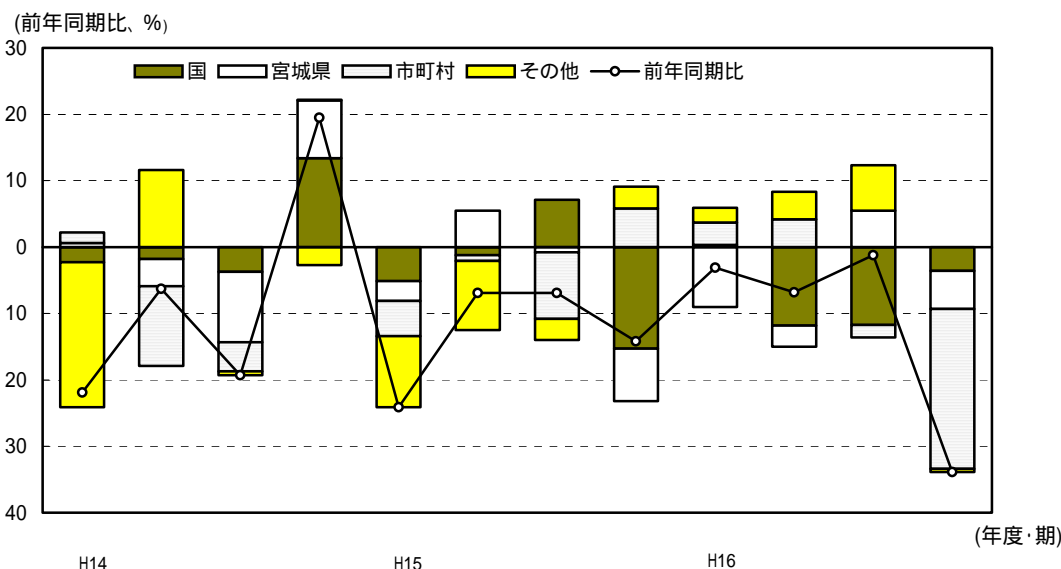
公共工事請負金額は、年度をベースにしているために動向や資料は年度を基準としています。

発注先別公共工事請負金額の推移



(資料: 東日本建設業保証(株))

四半期別発注先別公共工事請負金額(寄与度)の推移



(資料: 東日本建設業保証(株))

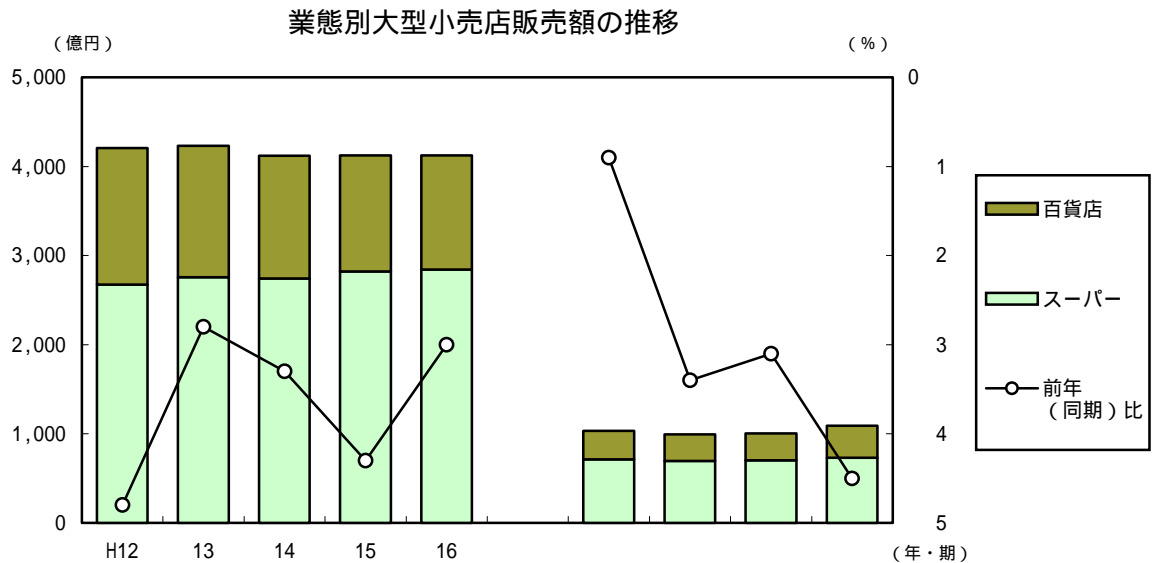
個人消費

(1) 大型小売店販売額

平成16年の大型小売店販売額は、4,124億6,800万円で、既存店比較の前年比は3.0%の減少となり、8年連続の減少となった。

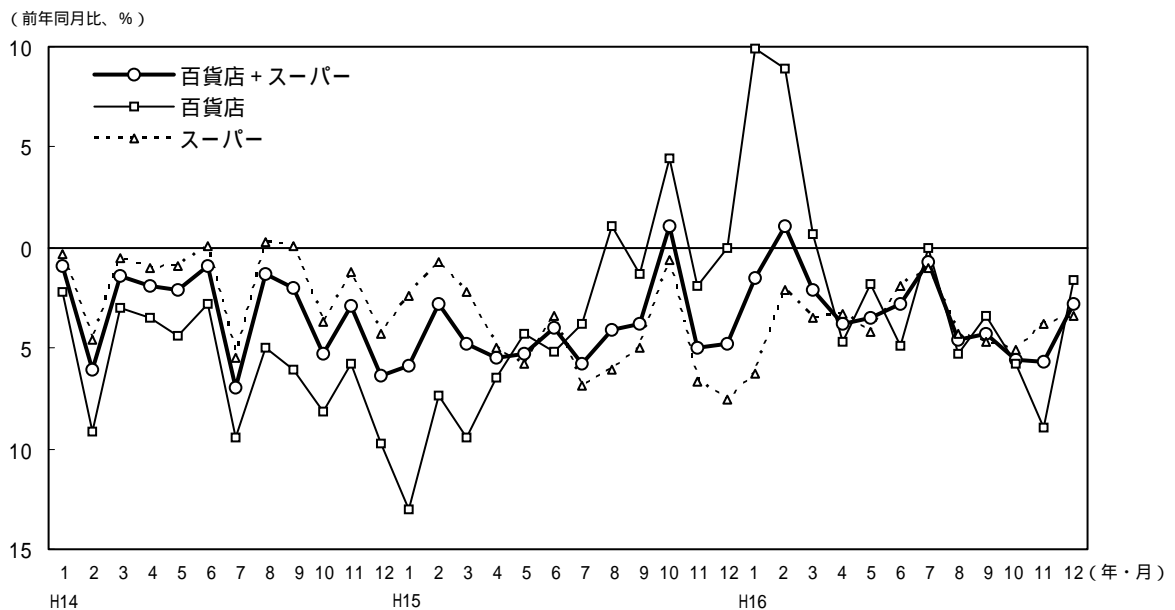
年間の推移をみると、年初から年間を通じて前年同期比(既存店比較)を下回った。

業態別にみると、百貨店は第1四半期が前年同期比6.2%と大きく上回ったが、第2四半期以降は前年同期比を下回り、前年比は1.7%の減少となった。スーパーは年間を通じて前年同期比を大きく下回り、前年比は3.7%の減少となった。百貨店は7年連続、スーパーは10年連続して前年比が減少となった。



(資料:東北経済産業局)

月別業態別大型小売店販売額(前年同月比)の推移(既存店比較)



(資料:東北経済産業局)

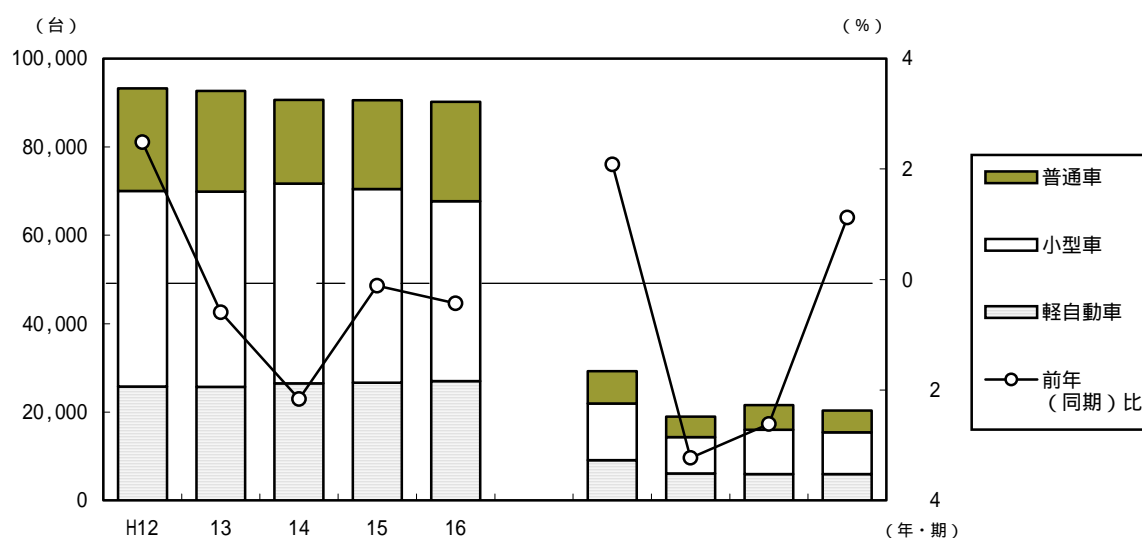
(2) 乗用車新車登録台数

平成 16 年の軽自動車の新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は 9 万 194 台で、前年比 0.4% の減少となり、4 年連続の減少となった。

年間の推移をみると、第 1 四半期と第 4 四半期は前年同期比を上回ったものの、第 2 四半期と第 3 四半期が前年同期比を下回った。

車種別にみると、普通車(排気量 2,000cc 超)は年間を通じて前年同期比を上回り、特に第 1 四半期が 26.3%、第 2 四半期が 11.9% と大きく増加し、前年比は 11.7% の増加となった。軽自動車(排気量 660cc 未満)は年前半は前年同期比を上回ったが、年後半では前年同期比を下回り、前年比は 1.5% の増加となった。小型車(排気量 2,000cc 以下)は第 1 四半期から第 3 四半期まで前年同期比を下回り、特に第 1 四半期が 12.0%、第 2 四半期が 14.8% と大きく減少した。第 4 四半期では前年同期比を上回ったが、前年比は 7.2% と大きく減少した。

車種別乗用車新車登録台数の推移



(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車協会連合会)

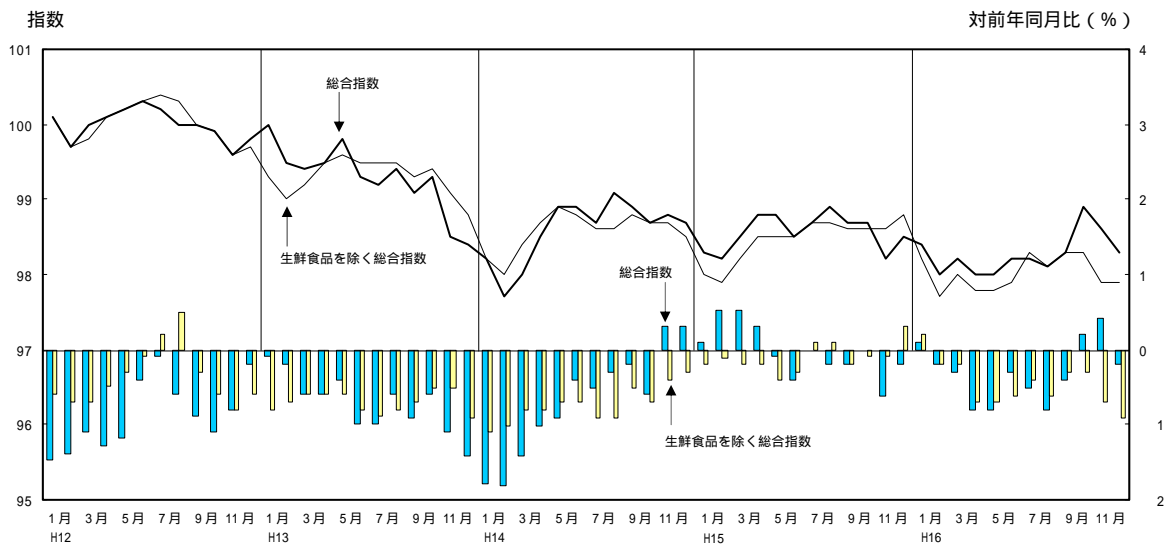
物 価

(消費者物価指数)

平成 16 年平均仙台市消費者物価指数(平成 12 = 100)は総合指数で 98.3 となり、前年比 0.3% の下落となった。生鮮食品を除く総合指数は 98.0 となり、前年比 0.5% の下落となった。

要因を月別にみると、2 月～9 月は前年の医療保険制度の改正やたばこ税の増税の影響による値上がりがあったものの、家賃、衣料および教養娯楽用耐久財の値下がり等によりマイナスで推移した。10 月～11 月は、生鮮野菜が高騰したこと等からプラスに推移した。

総合指数および生鮮食品を除く総合指数と対前年同月比の推移



(資料出所:宮城県統計課)

雇 用

(1) 有効求人倍率および新規求人倍率

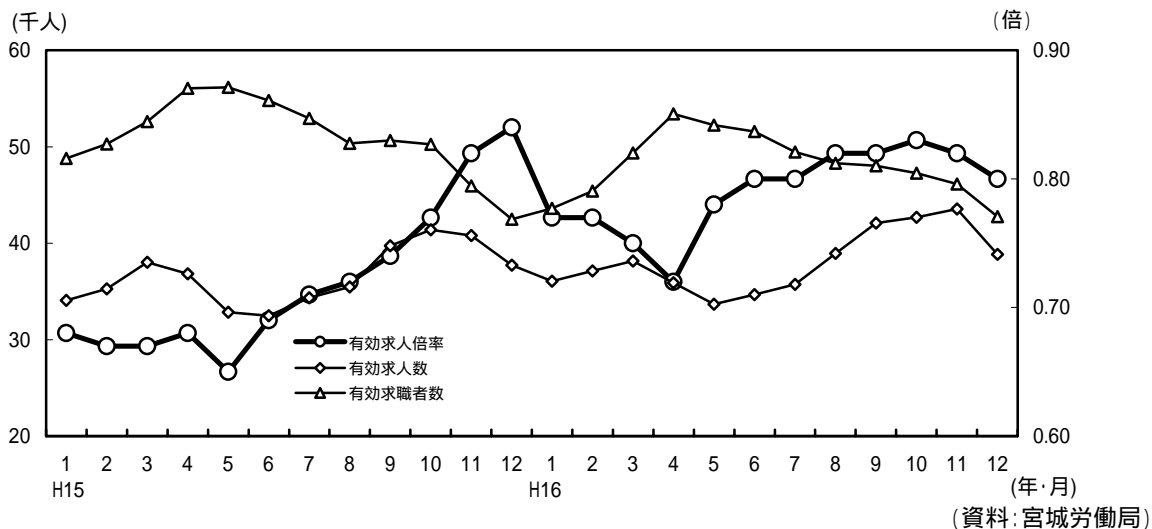
平成16年の有効求人数は45万7,381人で、前年比4.2%の増加となった。有効求職者数は57万7,540人で、前年比5.5%の減少となった。この結果、有効求人倍率は0.79倍で前年から0.07ポイント上昇し、3年連続の上昇となった。

年間の推移をみると、有効求人数は年間を通じて前年同期比を上回り、有効求職者数は年間を通じて下回った。有効求人倍率についても年間を通じて前年同期を上回った。

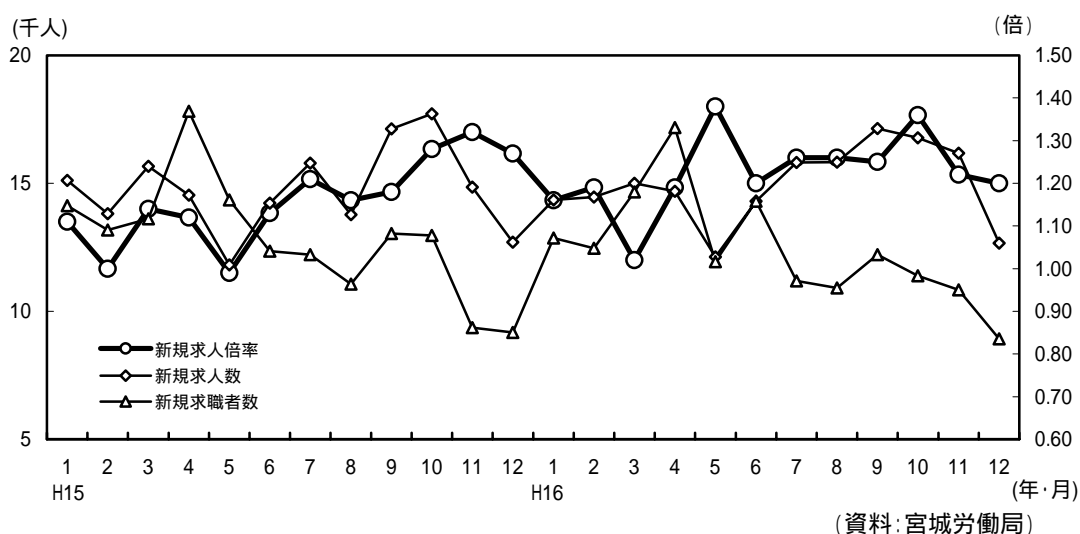
新規求人数は17万9,300人で、前年比1.2%の増加となった。新規求職者数は14万8,843人で、前年比2.9%の減少となった。この結果、新規求人倍率は1.22倍で前年から0.06ポイント上昇し、3年連続の上昇となった。

年間の推移をみると、新規求人数は第1四半期が前年同期比を下回ったが、第2四半期以降は前年同期比を上回った。新規求職者数は年間を通じて前年同期比を下回った。新規求人倍率は年間を通じて前年同期を上回った。

有効求人倍率、有効求職者数および有効求人倍率の推移



新規求人数、新規求職者数および新規求人倍率の推移



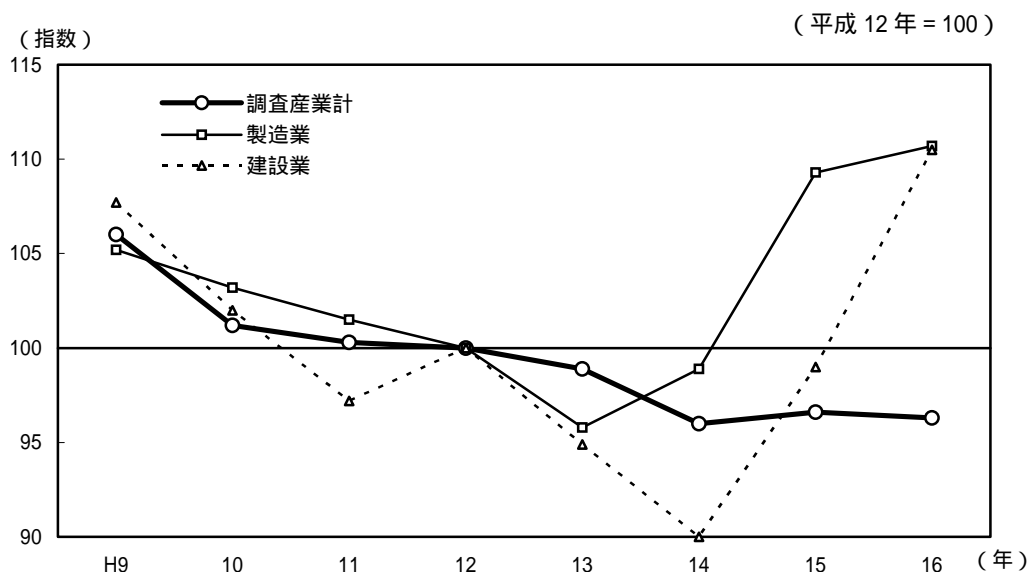
(2) 賃金

平成 16 年の実質賃金指数（平成 12 年 = 100）の調査産業計（事業所規模 30 人以上）は 96.3 で前年比 0.3% の減少となった。

年間の推移をみると、第 3 四半期で前年同期比を上回ったが、他の期間では前年同期比を下回った。

主要業種別にみると、製造業（事業所規模 30 人以上）は年前半で前年同期比を上回り、年後半ではやや下回ったものの全体では 110.7 で、前年比 1.3% の増加となった。建設業（事業所規模 30 人以上）は年間を通じて前年同期比を上回り全体では 110.5 で、前年比 11.6% と大きく増加した。

主要業種別実質賃金指数の推移（事業所規模 30 人以上）



(資料出所:宮城県統計課)

倒産

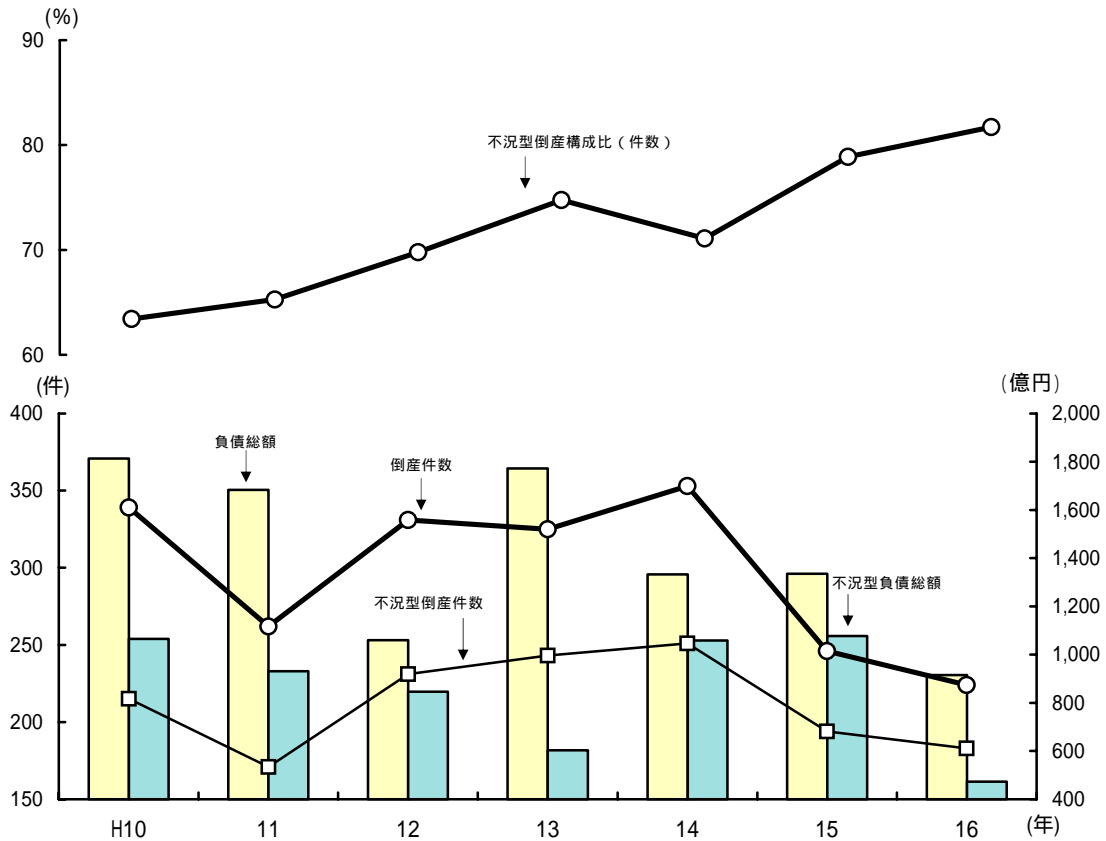
(企業倒産)

平成16年の宮城県内の企業倒産(負債総額1千万以上)の件数は224件で、前年比8.9%の減少となり、2年連続の減少となった。負債総額は914億5,300万円で、7年ぶりに1,000億円を下回り、前年比31.5%の大幅な減少となった。

これらのうちの不況型倒産(販売不振、売掛金回収困難、赤字累積)の件数は183件、負債総額は473億500万円で、ともに前年より減少となったが、その件数の構成比は81.7%で前年より2.8ポイント上昇し、依然高水準で推移している。

大型倒産の状況は件数は16件で前年より増加となったが、負債総額は644億400万円で前年比40.5%の減少となった。

四半期別倒産件数と負債総額(うち不況型倒産)の推移



(資料:(株)東京商工リサーチ)